

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立斐太高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和5年2月6日(月) 13:15~15:45
- 3 開催場所 斐太高等学校 有斐会館 会議室
- 4 参加者

会長	水口 浩美	高山市国府支所次長
副会長	高村 正博	前育友会長
委員	坂井 歩	高山自動車短期大学学長
	長澤 志保	前育友会役員
	番場 さとみ	育友会役員
	廣田 早苗	有斐会副会長(欠席)
	丸山 純平	飛騨ジモト大学事務局
	溝際 清太郎	株式会社駿河屋魚一代表取締役社長
	南 賢太郎	育友会長
学 校 側		
	大野 貴司	校長
	野中 明子	教頭
	石原 秀三	事務部長
	平野 昌之	教務部長(教務主任)
	駒澤 誠二	進路指導部長(進路指導主事)
	富田 喜友	生徒指導部長(生徒指導主事)
	清水 潤	特別活動部長
	中川 鉄紀	探究活動推進部長

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業参観

(2) 開会式 学校長挨拶

(3) 協議

ア 今年度の取組について報告及び来年度以降の課題について質疑応答と内容の確認
(教務部)

質問1: 教務部の新カリキュラム作成を行うという点について、作成の期限はあるのか。

⇒本校の7時間授業日の一部を6時間授業に変更することや、今年度からの新カリキュラムの改善点も検討し、よりよいカリキュラムを作成していきたいということで、特に期限があるわけではない。

意見1: ICTの活用について、新型コロナウイルス感染の影響もあり積極的に活用されてきたように感じていたが、ここにきて使用についてバックギアがかかっているような報告もあった。学年によって活用への評価に違いがあるのか知りたい。

(進路指導部)

意見2：進路指導での小論文や面接指導は外部講師を依頼しているということだが、本校に貢献したいと考えている育友会員や有斐会員にも依頼できると考える。

質問2：不安定な現在の社会情勢の中、早期の進路決定を希望する生徒や保護者は増加していると思うが、早期に決まった生徒の学習へのモチベーションの低下はないか、またモチベーション低下の対策を考えているか。

⇒早期に進路決定した生徒へは学年会を中心に指導を行っている。早期に合格した生徒へ課題を課す大学も多くなっていると確認している。11月下旬から3年次生は特別編成授業となるが、共通テスト以降は特に進路に合わせて選択できる授業を展開しており、学習意欲の低下を防ぐことができていると考える。

質問3：本校で早期に進路が決まる生徒は増えているか。

⇒併願で総合型選抜、学校推薦型選抜を受験する生徒の数は増えている。こういった入試型の定員が増えているため、受験を希望する生徒はますます増えていくと見込んでいる。

(生徒指導部)

質問4：今年度認知したいじめについて、その後の様子はどうか。

⇒いじめについては困っている生徒や保護者に十分に説明し理解を得たうえで見守りを行っている。

質問5：SNSの利用について、動画など、生徒が発信しているものをどの程度把握し、指導を行っているか。

⇒生徒からの訴えや、岐阜県教育委員会が把握した悪質な発信を確認する連絡で把握している。本校の生徒は節度を持って発信してくれていると考えている。スマートフォンの利用については生徒指導部通信等で注意喚起をしている。

意見⇒学校においても家庭においても管理や指導は難しいと思われるが、情報リテラシー講座など、SNSの使用等についてメッセージを発信してほしい。

(特別活動部)

意見3：部活動について、本校の部活動の評判が少し下がっているような話も耳にする。学習面ばかりでなく、部活動も本校の魅力として取り組み、またその魅力を中学生に伝えてほしい。

(図書広報部)

質問6：図書館の利用について、利用方法等、生徒へはいつごろ説明しているか。

⇒入学後1週間くらいでオリエンテーションを行っている。

意見⇒入学直後は様々なオリエンテーションがあり、また緊張感もあって覚えていないこともある。ある程度の期間をおいて再度行ったり、1年後に状況を生徒に伝えたうえで図書委員などが中心となった活動を推進したりできるとよい。

意見⇒来年度は図書館を見学したい。

意見4：ホームページ作成について、対象とする中学生のスマートフォンの使用率が高いなら、スマートフォンにあったレイアウトを、もしくはパソコンとスマートフォンの両方で利用できるように作成するとよい。

質問7：学校の図書館での電子書籍の取扱いはどのようになっているのか。

⇒電子書籍の貸出等を行っていない。

意見⇒電子書籍の貸し出しについては、著作権の問題もあり、持ち出し可能にするためには多くの費用もかかる。

意見⇒電子書籍の方が、現在の生徒は慣れていると思われる。今後、電子書籍を導入できると図書館の活用を促進できる。

(保健厚生部)

質問8：掃除は教職員も行っているか。

⇒各所に監督の職員がおり生徒と一緒に掃除を行っている。

意見⇒教える立場の者が率先して行動することが大切。廊下のごみは職員がまず拾うようにするとよい。

(探究活動推進部)

意見5：FRHの取組について、飛驒をキーワードにした発表が多くうれしかった。取組が発表会で終わるのではなく、次年度に引き継がれ、掘り下げていくことができると現実的なものになると考える。「市議会議員と語る会」「市長と語る会」等の意見交流もあり、生徒の考えが、実際に取り入れられるとよい。

意見6：FRH発表会で、自分のものにしてしている生徒の発表は違うと感じた。自分の意見を発表するようなコミュニケーション活動はこれから本当に大切になる。能力を高める取組をお願いしたい。

イ 来年度の学校運営についての提言と助言

質問1：地区内の中学生が他地区の高等学校を受検することについて、中学生が進学先を決める理由を把握しているのか。

⇒本校を選択する中学生については、多くは上級学校への進学を希望して選択している。校風も選択の理由の一つとなっている。

意見1：他地区の高校や私立学校を希望している中学生が増えているとしたら、本校入学志願者が定員を割り込むのは中学生の生徒数の減少だけが理由ではないと考える。

⇒岐阜地区や大垣地区以外では、進学校への希望者が定員を割り込んでいる地区が多い。高校では学習以外の活動を大切にして上級学校へ進学したいと考える中学生が相当数いると聞いている。また、高山市内の高校への通学でも下宿が必要な中学生は、他地区を選択肢に入れることも十分考えられる。

意見2：苦勞しても本校で学習するメリットが感じられるとよい。大学も定員が増えており入学しやすくなっているという傾向も影響があると思われる。

⇒生徒が多様化している中、それぞれのニーズに合った学習の仕方や大学進学を目指すことができるシステムが必要だと考える。ただ、岐阜県が令和7年度にスクールミッションを出すにあたって各学校に使命が与えられるため、大きな変革はその時になると思われる。学校が大きく変わることは難しいが、楽しい学校にしていかなければいけないし、それをアピールしていきたいと考えている。

意見3：教職員の負担は減っているのか。

⇒新しい取組が増えており減っているという感じはない。学校内で扱う文書の削減など校内で軽減できることは行っている。教員では気づくことが難しい業務の改善を学校運営協議会委員や外部の方に助言いただけるとありがたい。

意見4：やりがいという言葉につぶされてしまわないよう、心身の健康を大切にしてほしい。

意見5：私立学校は学校の情報がすぐに伝わってくる。また、進学指導に差があるようにも感じる。本校から転学した生徒が、転学先では個性を大切にしてもらえたという話も聞いている。一人一人の生徒を大切に育ててほしい。

6 会議のまとめ

- ・今年度の報告に対して非常に細かな部分までご意見をいただいた。社会情勢の変化に対応した教育活動をより一層進めていくため、こうしたご意見を来年度の学校運営に生かしていきたい。また、より具体的な助言や提言を得ることができるよう、来年度の学校運営協議会の持ち方について考えていきたい。